

## まだ遊びたい（遊んだのになぜ？）

園庭や教室でたくさん遊び、みんなが次の活動に移ろうとしても、なかなか次の活動に移れず、「まだ遊びたい」と主張したり、読みかけの絵本が閉じられなかったりする子どもがいます。その理由は、大きく次の2つです。

### お部屋に入りたくない

#### ① 自分の園でのホームポジションがわかっていない

まずは、人的環境、物的環境、空間的環境がその子にとって安心できない可能性はありませんか。

人的環境：先生はその子の安全基地になれていますか。

毎日の迎え入れで、子ども、保護者ともに安心できるような対話をしたり、視線を向けたりすることができているのか一度振り返ってみよう。

物的環境：保育室は落ち着ける場所ですか。

いつも同じ椅子や座り心地の良い場所や、眼が休まる壁面構成になっているかどうか、色合いや掲示物を見直そう。また理解を助けるための絵カードの枚数が多すぎても負担に感じます。

空間的環境：どのような行動を求めている部屋なのか、子どもが部屋の中に入っただけで分かりますか。

天井が高かったり、床面が広いと落ち着きません。きれいな座布団がある畳の部屋やこたつがあれば、誰もが座って過ごそうとします。部屋が子どもにどのような行動を求めているのかが分かるかどうか、一度見直してみよう。また、脳が休まるような音環境を整えることも大切です。

#### ② 次の活動の見通しが持てない

次の活動があと少しで始まることを予告しよう。スケジュールは、単純でその子どもが分かる量で提示しよう（多くても片手で数えられる5つ）。その子の楽しみな「ごほうび」活動を入れることを忘れないようにしよう。

#### ③ 励ましが届きにくい

「よく遊んだね」「楽しかったね」等の言葉や表情による感情を共有できないため、自分の満足を得られるまで遊びきった感覚を得られない子どもがいます。まずは「満足した」「おしまいまでやりきった」という感情を大人が共有することから始めます。

#### ④ 集団より一人が快い

みんなが遊んでいるときは傍観しているけれど、人がいなくなるとはじめて安心して遊ぶことができる子どもがいます。遊びこむことを大人が中断させたり、共に遊びこもうと侵襲的にならないよう気を付けよう。

インリアルアプローチのSOULマインドを基本とした傍らでの見守りが支援のスタートです。

### まだ十分に遊んでいない

周囲の遊具や、ほかの子どもの遊びが気になり、遊びが転々としていませんか。

遊びはじめても、近くの遊具や、周囲の子どもの遊びが気になり、遊びを転々と変えることがあります。その子どもは、実際には遊びこんでいないため、「遊んでいない」というのです。一番遊びたかったのは、最初に始めた遊びです。

- ① 遊びが転々としても、最初の遊びに戻ってくるように仕向ける。
- ② ほかの遊びが集中できるよう、遊び空間を間仕切りや、線を引いて区切る。
- ③ 遊びが中断して集中が途切れることで、疲れてしまい、怒りやすくなっていることも知っておこう。